



国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」



国の天然記念物に指定されている「平松のウツクシマツ自生地」は、ウツクシマツが群生している日本で唯一の「ウツクシマツが自生し、天然更新している」場所です。



ウツクシマツとは

ウツクシマツは、アカマツの一品種です。根元の少し上部から複数の枝幹をほうき状に出し、美しい傘状樹形になるのが特徴です。樹形には同じ傘型でも変異があり、様々な樹形をウツクシマツ自生地内で見ることができます。

ウツクシマツの特異な形態は、平成14年(2002年)に太田明氏の研究によって劣性遺伝子により支配される遺伝形質であることが判明しています。



ウツクシマツ自生地が国の天然記念物に指定されるまで

地元の平松区においては、ウツクシマツは松尾神社の御神木として尊重され、ウツクシマツ自生地のウツクシマツも今日まで大切に守られ、継承されてきました。

また、江戸時代には『東海道名所図会』や『伊勢参宮名所図会』(寛政9年(1797年))に東海道五十三次沿いの名所として紹介されており、諸国文人がしばしば訪れる有名な景勝地であったことがわかっています。



ウツクシマツ自生地が国の天然記念物に指定された経緯

大正8年(1919年)から史蹟名勝天然記念物調査会が編成され、調査会委員である三好學氏のもと調査が実施されました。この調査でウツクシマツ自生地は「美松山における一区域の松樹が皆傘形となっているのは他に類はなく奇観というべき」とし、また「ウツクシマツは学問上の参考資料として価値が大きい」ことから、ウツクシマツが生育する美松山は天然記念物として保存が望ましいとされました。これらの理由により、大正10年(1921年)3月3日に天然記念物「三雲村美松自生地」として指定を受けました。現在の名称になったのは、昭和32年(1957年)7月31日です。



国の天然記念物に指定された後～現在まで

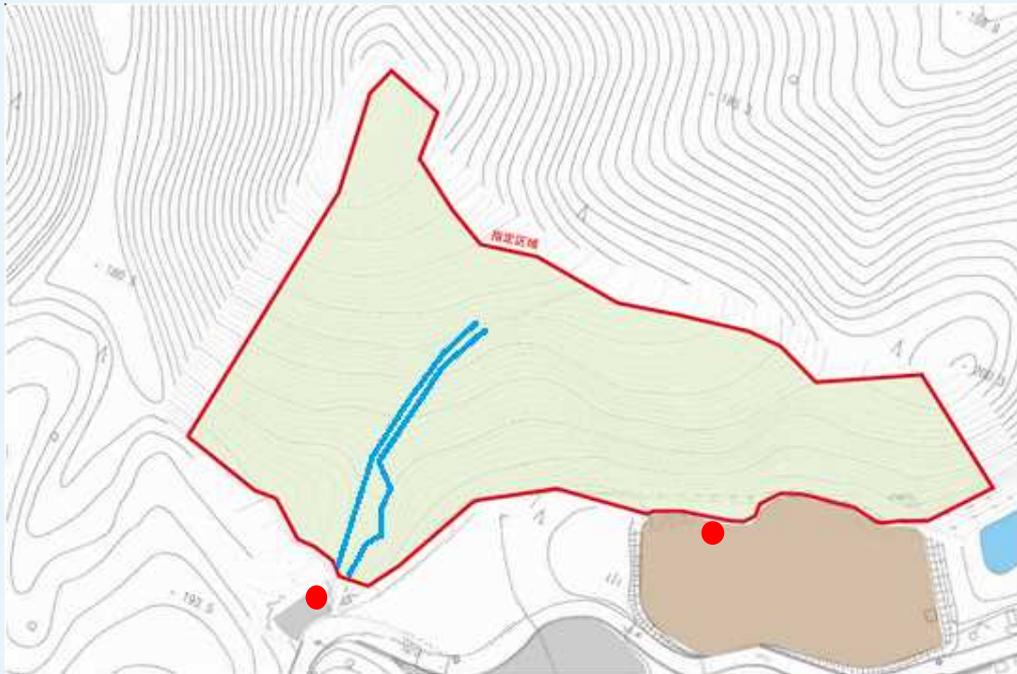
指定当初は多くのウツクシマツが生育していましたが、昭和53年頃から松枯れ被害が拡大し、多くの松が枯死しました。そのため様々な保護対策を実施してきましたが、松枯れ被害が止まらず、年々ウツクシマツが減少してきました。

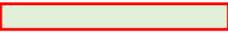
ウツクシマツ自生地の価値を今後も残していくために、現在湖南省と地元が一丸となってウツクシマツ自生地の保護に取り組んでいます。



～ウツクシマツ自生地に生育するウツクシマツ～

平松のウツクシマツ自生地と周辺図



表記	意味
	平松のウツクシマツ自生地の範囲
	遊歩道
	グラウンド
	駐車場
	パンフレットスタンド設置場所

平松のウツクシマツ自生地に指定されているのは図の赤枠で囲んだ約1.9ヘクタールの範囲です。この範囲に様々な樹形のウツクシマツが自生しています。ウツクシマツ自生地内にはウツクシマツの成木、若木、実生苗が多数生育していて、人がむやみに踏み入ると踏みつけてしまうことがあるので、ウツクシマツ自生地を鑑賞されるかたは、下記のことを守って下さい。

-  遊歩道内からか、またはグラウンドから鑑賞してください。
-  ウツクシマツ自生地内へは立ち入らないでください。
-  ウツクシマツ自生地内のウツクシマツを含めた木には触れないようにして下さい。

ウツクシマツ自生地の環境保護のために必要な事ですので、必ずマナーを守って下さい。

(ただし、ウツクシマツ自生地の保全等のために管理団体である湖南省の職員等の人が自生地内で作業をしている場合があります。)